



前回会合（論点整理）における主な意見

令和8年4月8日
事務局

- 前回会合（2月16日）においては、論点整理の方向性・考え方等について多くの賛同・後押しのご意見があった他（詳細は議事録を参照）、第3期取りまとめ案の検討における主な論点となるご意見のポイントを以下掲載。

通信インフラの利用条件・品質

- 通信インフラは、現段階では円滑性（乗り心地等）に有効であり、結果として安全にも寄与。その価値を高めると同時に安全への直接寄与は研究課題として重要。その上で「円滑性」での期待条件等の具体的なユースケースとともに共通理解が重要。現時点で100点を目指すよりも、まず類型化し、実証して仮説通りなら実装を進め、必要があれば見直せば良い。安全は当然重要だが追求し過ぎるあまり実装が止まるのは惜しい。実運用を通じて課題を可視化して改善サイクルを回すことも問題解決の近道。（加藤構成員、平石構成員、大山構成員、城田構成員等）
- 故障等の条件に限らず、計画的行程であっても設備の再起動が必要なケースなど、可用性の観点から24時間365日携帯通信の断が100%ない状況を作るのは困難であり、経済合理性からも現実的でない。技術／事業の両面から検討が必要。（平石構成員、城田構成員）
- 弱電波と通信混雑という悪条件が重なると、アップリンク帯域の狭さも相まって、通信の安定性維持が難しい場合がある。その対策としては、5G SAのネットワークスライシングや、アプリと連携した通信状況に応じた品質最適化などの技術・アプローチの開発等が重要。（松田構成員）

多様な通信インフラの有効活用

- キャリア5Gで商用実装を進めつつ、実証段階では将来のキャリア5Gでの実装を見据えたローカル5Gも有効活用できる。通信事業者と自動車業界が協働し、BtoBで通信インフラ・サービスの価値がWin-Winになるビジネスモデルの創出が重要。（杉山構成員、大山構成員）

費用対効果・採算性・事業モデル

- 自動運転や通信インフラの高度化によって車が高価になり、ユーザー価格が上がり過ぎてしまうと普及が遅くなる。3Gを使った車のナビシステム等が3Gサービス終了に伴い使えなくなる課題も起きている。中長期的に皆が活用できるエコシステムや一般ユーザを考慮した仕組みが重要。（藤島構成員）
- 車の開発とともに物流事業を行う事業者としてはコストが大きな関心であり自動運転専用の料金プランなどコスト低減策も検討いただきたい。（三浦様（川崎構成員の代理））
- ルーラルエリアなど採算性の厳しい地域はすぐに答えが出ず、公共交通の収益のみでの自動運転はビジネスモデルとして厳しい中、価値を見つけてお金が回る仕組みを考えていくことが必要であり、政府の旗振り・支援や関係者での知恵だし・議論が必要。（杉山構成員、松田構成員）
- 携帯通信の基地局仮想化機能や5.9GHzITS通信を道路インフラに適用して例えば新しいモバイルフロントホールを構想できないか。ビジネス視点では、RUやアンテナ等を道路インフラと一体・効率的に整備・運用するモデルや新たな海外輸出商材としても期待できる。（杉浦構成員）

協調領域としての通信インフラ

- 通信インフラを、自動運転の「補助機能」から、自動運転を支える「基幹インフラ」へと考え方を再定義・進化させ、通信を使う側と提供する側が協創型エコシステムを一緒になって設計・構築し、実装に向けて取り組むことは重要。（池田構成員）
- 通信サービスはこれまで基本的に競争領域であったが、自動運転の社会実装や本格普及を見据えると通信インフラは競争領域で良いものなのか。事業者間の歩み寄り・協業や政府の旗振りがある中で対話が必要なのか。携帯通信のインフラ整備は競争領域なのか／協調領域なのかの分析は重要。人が住んでいる場所は携帯各社（MNO）が競争的にインフラを構築しMVNOがそれを利用してきた構図だが、人が住んでいないが道路が通っているルーラルエリアのインフラ整備をどのように進めるかは重要な論点。（佐々木構成員）

自動運転以外の交通参加者への対応

- 自動運転だけでなく、事故ゼロや安全安心なモビリティに向けた様々な交通参加者（人が運転する車、自転車、歩行者も）が共通で使えるインフラという視点も、インフラの投資対効果の観点からも重要。（山本（信）構成員、藤本構成員、岩下構成員 等）

通信インフラ整備のロードマップ

- 自動運転を支える通信インフラ整備のロードマップを本格的に策定する時期に来ているのではないかと。第3次交通政策基本計画には「自動運転車1万台」という目標台数が盛り込まれ、その中で自動運転バスの実装が見込まれているのは確かだが、実証事業においては、ODDを十分拡張できておらず人の介入が必要なケースがあり、信号連携等がなければ円滑性や社会受容性の観点でも課題が見えている。インフラ関連メーカーの投資計画、スマートポールの多目的利用の観点からも、ITSインフラの整備計画の検討は重要。（山本（昭）構成員、小花構成員）

中長期も見据えた通信インフラ・AI・ユースケース

- APN・コンピューティング基盤によって、個々の自動運転車を支えるだけでなく交通全体を最適化するという中長期も見据えた通信インフラの進化の方向性は重要であり、そこではAIによるデータ利活用・分析も重要となる。例えばヒヤリハット・路面・天候等に関する車の挙動や映像のデータを共有・活用できる仕組みがあるとAI開発等のコスト低減にもつながる。（重野構成員、杉山構成員、小花構成員）
- 例えば、右折時に対向車線にトラックがいる場合の二輪車すり抜け等のリスクを後続車両にカメラ映像を共有・可視化、AI画像認識を通じた車両・歩行者・二輪車の挙動把握や共有といった車車間通信等の将来ユースケースを見据えた技術的な検討も重要。（山本（昭）構成員）